

資料5



# 令和7年度重層的支援体制整備事業の進捗 令和8年度の取組方針について

拡大から質の向上, そして持続可能な地域共生社会の実現へ

令和7年度 健康福祉審議会 地域健康福祉専門分科会

令和8年2月19日(木) 午後2時～

福祉部福祉政策課



# 目次

## 1. はじめに

- (1) 重層的支援体制整備事業の全体概要
- (2) 私たちの目指す「包括的な支援体制」とは
- (3) 柏市重層的支援体制整備事業(かしまる)の全体概要

## 2. 令和7年度のかしまる進捗状況

- (1) 主要な取組
  - ・かしまるプロジェクト実行計画
- (2) 取組の成果
  - ・地域共生社会の連携会議
  - ・参加支援と地域づくり

## 3. 令和8年度かしまるの取組方針

- (1) 重層的支援体制整備事業の今後の見通し
- (2) 柏市の取組方針



# 目次

## 1. はじめに

- (1) 重層的支援体制整備事業の全体概要
- (2) 私たちの目指す「包括的な支援体制」とは
- (3) 柏市重層的支援体制整備事業(かしまる)の全体概要

## 2. 令和7年度のかしまる進捗状況

- (1) 主要な取組
  - ・かしまるプロジェクト実行計画
- (2) 取組の成果
  - ・地域共生社会の連携会議
  - ・参加支援と地域づくり

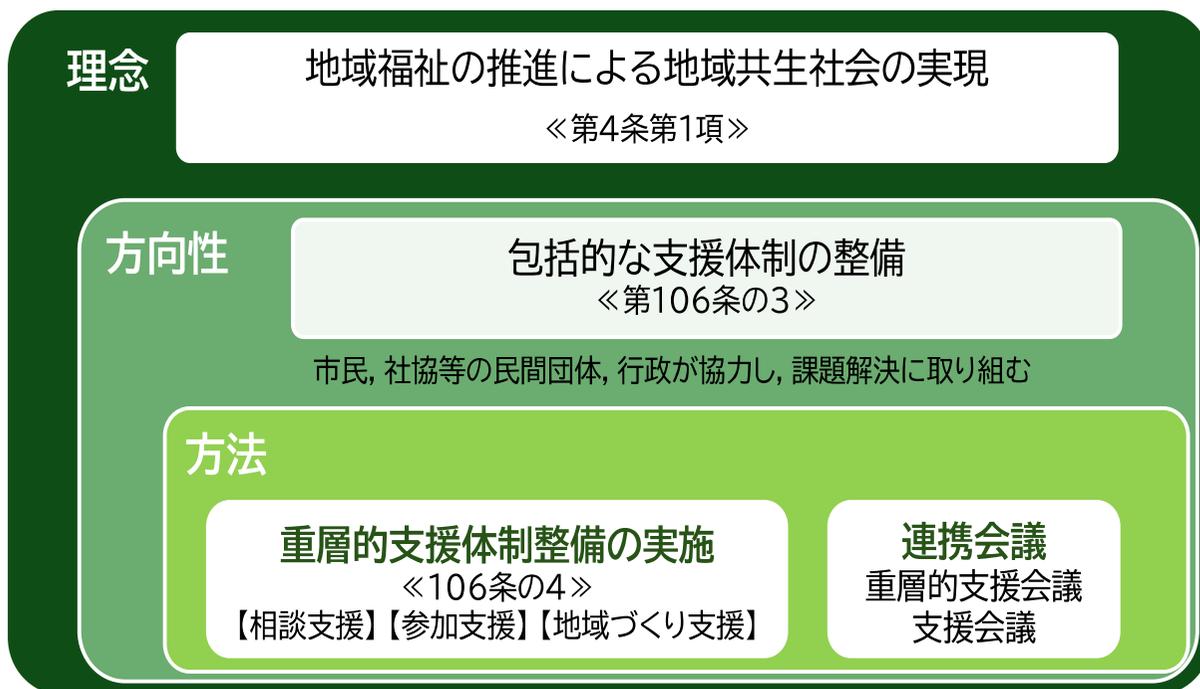
## 3. 令和8年度かしまるの取組方針

- (1) 重層的支援体制整備事業の今後の見通し
- (2) 柏市の取組方針

# 1 (1)重層的支援体制整備事業の全体概要



第5期柏市地域健康福祉計画 資料編P97



柏市重層的支援体制整備事業実施計画を策定



▽ という福祉改革の理念を実現するために



▽ が求められる。でもそのためには



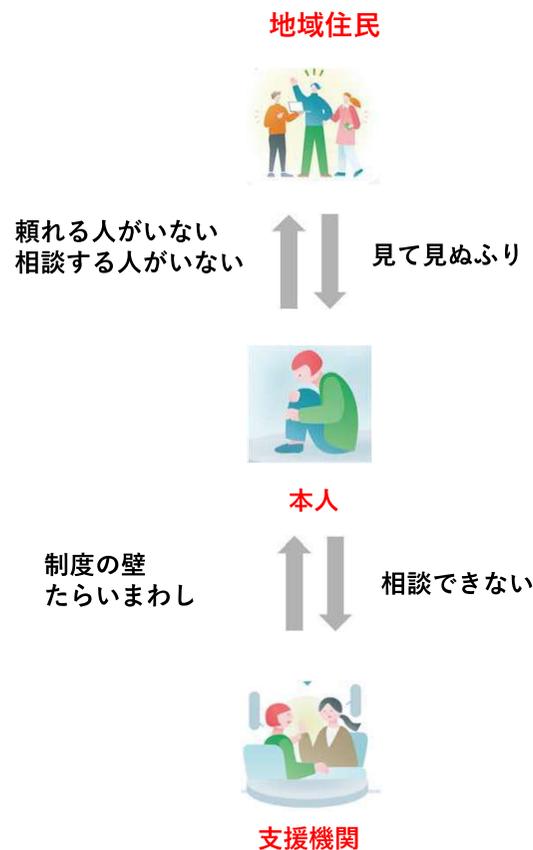
の仕組みを利用していく



# 1 (2) 私たちの目指す「包括的な支援体制」とは

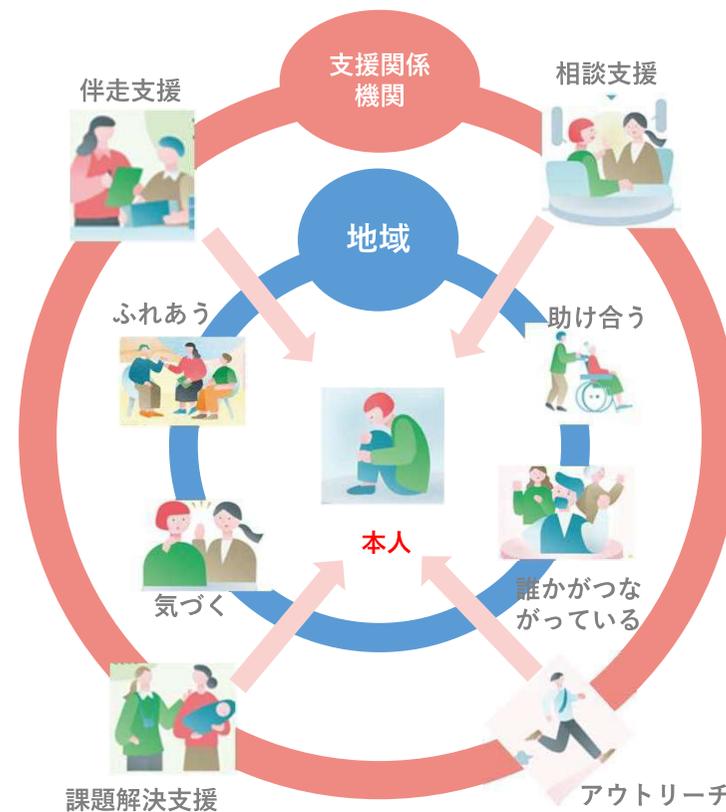


これまで



- ・窓口で相談者が来るのを待つ→自覚がない人はどうするの？頼ることができない人は？
- ・地域に気になる人がいても声をかけられない又は排他的

これから = 包括的支援体制

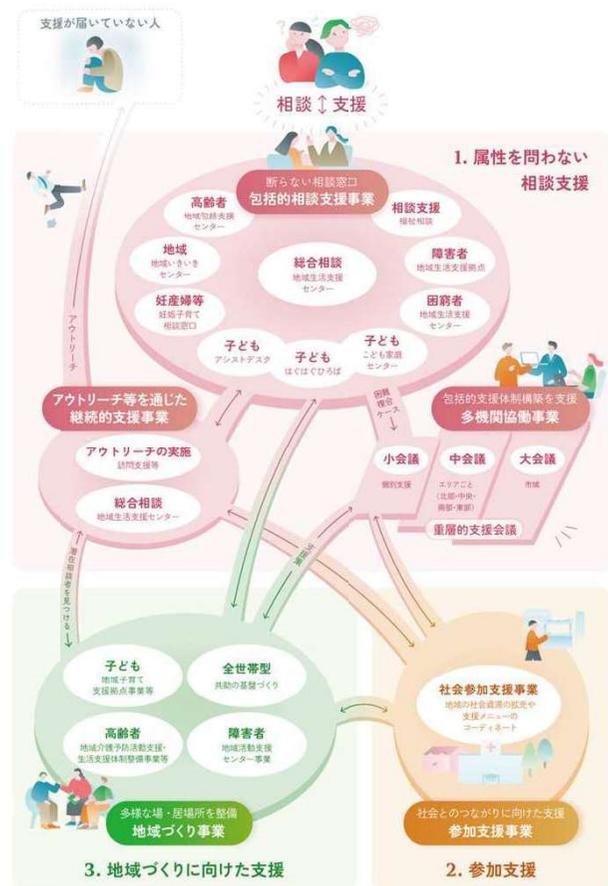


- ・日頃から誰かとつながれる、下支えする地域ができている
- ・専門的な支援者として支援関係機関があり、制度を超えた相談支援や課題解決型の支援、伴走支援が行われている

# 1 (3) 柏市重層的支援体制整備事業(かしまる)の全体概要



## 重層的支援体制整備事業(かしまる)の全体像



支援の種類	事業名・内容
(1)属性を問わない相談支援	<b>①包括的相談支援事業</b> ・属性や世代を問わず、包括的に相談を受け止める ・相談支援機関間のネットワーク対応 ・複雑化・複合化した課題を多機関協働事業へつなぐ
	<b>②多機関協働事業</b> ・市町村全体で包括的な相談支援体制を構築する ・重層的支援体制整備事業の中核を担う役割を果たす ・支援関係機関の役割分担を図る
	<b>③アウトリーチ等を通じた継続的支援事業</b> ・支援が届いていない人に支援を届ける ・関係機関とのネットワークや地域住民とのつながりの中から潜在的な課題を抱える人を見つける ・本人との信頼関係の構築に向けた支援に力を置く
(2)参加支援	<b>参加支援事業</b> ・社会とのつながりを作るための支援を行う ・利用者ニーズを踏まえた丁寧なマッチングやオーダーメイドのメニューをつくる ・本人への定着支援と受け入れ先の支援を行う
	<b>地域づくり事業</b> ・世代や属性を超えて交流できる場や居場所の確保 ・個別の活動や人のコーディネート ・他分野につながるプラットフォームの展開

このような仕組みを利用して、全ての地域住民が関わり合いながら生きづらさを抱える方への複雑性や多様性に応えていくもの



# 1 (3) 柏市重層的支援体制整備事業(かしまる)の全体概要

## 多機関協働事業(法第106条の4第2項第5号)

- ・市町村全体で**包括的な相談支援体制**を構築する
- ・重層的支援体制整備事業の中核を担う役割を果たす
- ・支援関係機関の役割分担を図る

### 柏市の実施体制(委託先)

#### 福祉の総合相談

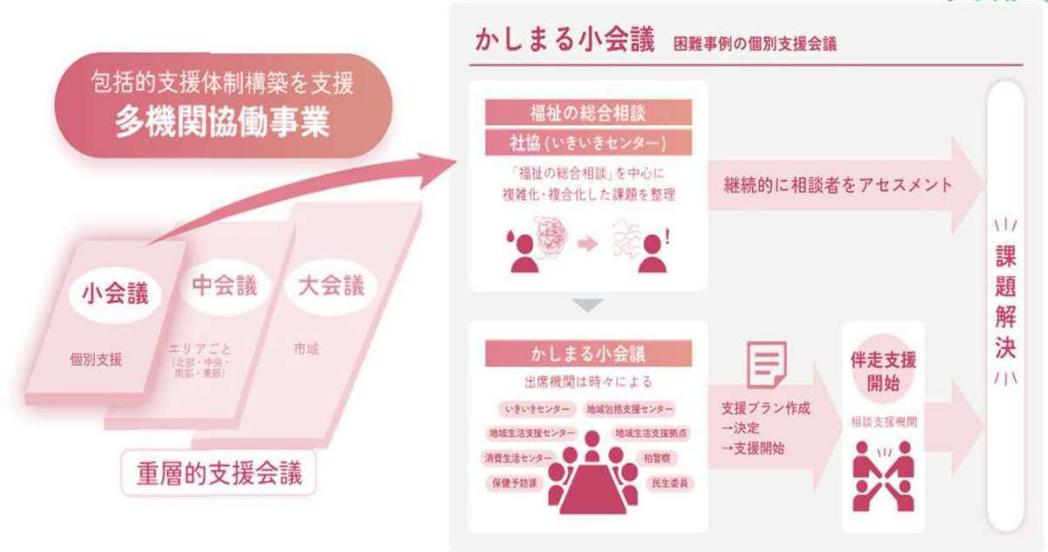
- ・属性を問わない課題を抱えた市民からの相談(課題の解きほぐし)
- ・相談支援機関の支援
- ・相談内容に応じた支援機関へのつなぎ

#### いきいきセンター

- ・重層的支援会議の開催
- ・支援プランの調整
- ・支援の方向性の決定
- ・終結, 伴走支援

支援者間の調整やチーム支援をするための「支援者支援」機能を持つ

「総合相談」がなくても、既存の窓口で対応できる体制を作る





# 目次

## 1. はじめに

- (1) 重層的支援体制整備事業の全体概要
- (2) 私たちの目指す「包括的な支援体制」とは
- (3) 柏市重層的支援体制整備事業(かしまる)の全体概要

## 2. 令和7年度のかしまる進捗状況

- (1) 主要な取組
  - ・かしまるプロジェクト実行計画
- (2) 取組の成果
  - ・地域共生社会の連携会議
  - ・参加支援と地域づくり

## 3. 令和8年度かしまるの取組方針

- (1) 重層的支援体制整備事業の今後の見通し
- (2) 柏市の取組方針

## 2 (1) 主要な取組



### 第5期柏市地域健康福祉計画 柏市重層的支援体制整備事業実施計画の策定

→ 市民, 関係機関, 地域の多様なステークホルダー間で目指すべき方向性を共有

計画では

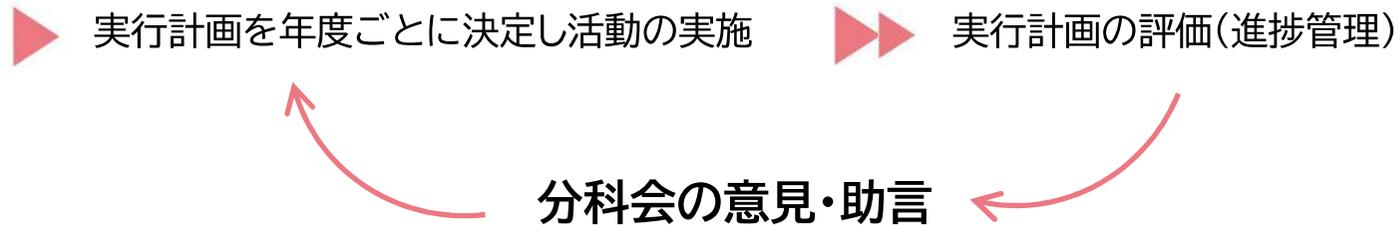
多機関協働事業者を主とした「OneTeam」による支援の実施  
を意識した取組を進める



重層的支援体制整備事業実施計画より抜粋

### かしまるプロジェクト

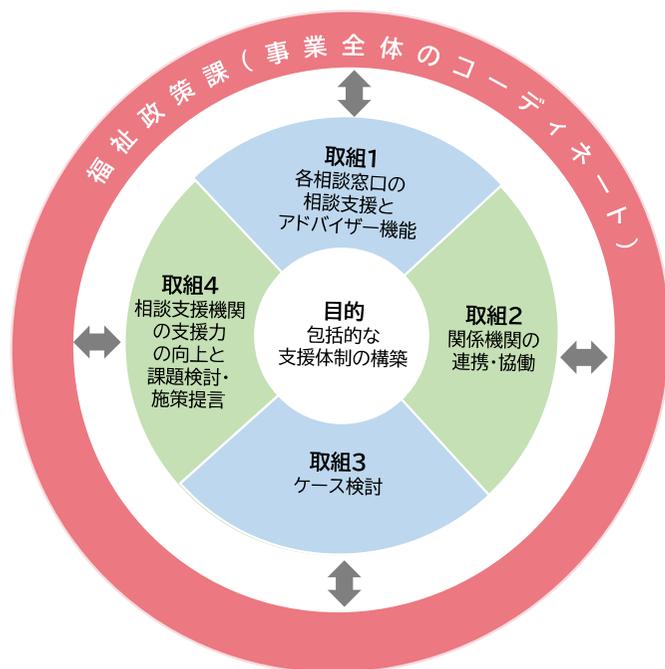
～「包括的な支援体制」を構築するプロジェクト～



## 2 (1) 主要な取組 ・かしまるプロジェクト実行計画



### 実行計画の4つの取組



#### 取組1

各相談窓口の相談機能とアドバイザー機能の充実

- ・支援者に「かしまる」及び「多機関協働事業」の理解促進
- ・市民を「たらい回し」にしない相談機能をつくる

#### 取組2

多分野や関係機関の連携・協働の推進

- ・地域共生社会の実現は「福祉分野だけの取組だけではない」ことへの理解促進

#### 取組3

ケース検討の実施

- ・単独の機関や連携だけでは対応が難しい事例のケース検討を行い、それぞれの役割を明確にする

#### 取組4

相談支援機関の支援力の向上と課題検討・政策提言の実施

- ・地域における支援機関の支援力を強化し、課題検討や効果的な政策提言

## 2 (1) 主要な取組 ・かしまるプロジェクト実行計画



取組	実行計画	課題感	令和7年度実施内容	R7年度末評価
1 各相談窓口の相談機能と アドバイザー機能の充実	かしまるの 周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「かしまる」を利用したことのない支援者は知らない？</li> <li>・必要ない？</li> <li>・目指すものが理解されているのかわからない</li> <li>・多機関協働事業者の役割が「困難事例を引き受ける」と間違った理解をされている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「かしまる広報誌」の発行(年3回) →支援者の出演記事の掲載 重層ケースの上げ方ルートマップ等の作成</li> <li>・各団体等への研修講師派遣 →「ケアマネ研修」など</li> <li>・中会議及び大会議での制度説明 →何を狙っているのかを伝える</li> <li>・主要相談窓口との個別ヒアリング →各相談支援機関が抱えるモヤモヤを御用聞き (中会議アンケートを元にヒアリング等)</li> </ul>	<p>3支援機関との意識共有</p> <p>実施件数</p> <p>アンケート集計</p> <p>個別ヒアリングの結果をまとめ実態を明らかにする</p>
	かしまるネットの 利用促進	「たらい回しをなくす」と「業務効率化」のために設置したが利用件数が伸び悩み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置機関への実態調査 →原因の追究</li> </ul>	R8年度の事業計画が立てられるように調査結果をまとめる
2 多分野や関係機関の連携・協働の推進	福祉分野との 連携	普段あまり関わりのない機関(分野)と連携することが難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「にも包括」との合同会議の開催 →互いの理解を深める</li> </ul>	R7年度開催実績
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁内連携会議で各課の取組を共有 →計画の進捗において取組の共有を想定</li> </ul>	会議後アンケート結果(各課取組を理解できてるか)
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会議を活用した連携 →支援機関のチームづくり(共に考えながら課題解決を目指す土壌づくり)</li> </ul>	会議後アンケート結果(各課取組を理解できてるか)

## 2 (1) 主要な取組 ・かしまるプロジェクト実行計画



取組		実行計画	課題感	令和7年度実施内容	R7年度末評価
2	多分野や関係機関の連携・協働の推進	医療との連携	病院との連携ハードルが高い	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神科「初石病院」との連携 →精神対象者のケース会議に出席依頼</li> </ul>	MSWに対して制度の理解が進んでいる
		福祉・医療以外の分野との連携	企業との連携が出来ていない(力を借りたい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業のCSR活動との連携 →方法の検討(企業選抜など)</li> </ul>	R8事業計画のため調査結果をまとめる
		地域との連携	地域とのネットワーク不足 地域生活課題の情報収集不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援体制整備事業への参画 →既存制度から柏市の不足部分をリサーチ →ついでに「かしまる」のPR</li> </ul>	連携のリサーチ
3	ケース検討	小会議の開催	関係機関だけで困難事例に対応できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>重層的支援会議及び支援会議の開催 →支援機関からHELPがあれば即時対応</li> </ul>	小会議の開催数
		小会議の事例共有	全ての関係機関が複雑化・複合化した事例がどのようなものなのかわかっていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例集の更新, 活用 →Pチームの誰もが理解できているか</li> </ul>	支援機関が事例集の存在を知っている(アンケート実施?)
		参加支援の利用者の管理	参加支援の利用者をかしまる会議で検討していない	<ul style="list-style-type: none"> <li>かしまるシェアの運用開始 →管理方法の決定</li> </ul>	多機関協働事業者が状況や件数を把握できること
		アウトリーチの利用者の管理	アウトリーチの利用者をかしまる会議で検討していない	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議の開催及びかしまるシェアの運用開始 →管理方法の決定</li> </ul>	多機関協働事業者が状況や件数を把握できること

## 2 (1) 主要な取組 ・かしまるプロジェクト実行計画



取組	実行計画	課題感	令和7年度実施内容	R7年度末評価
4 支援機関の支援力の向上と 課題検討・提言	人材育成研修	・行政も支援機関も制度の縦割りや専門性にとどまった視点で仕事をしてしまう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会議</li> <li>・地域共生社会の連携会議</li> </ul>	事前と事後のアンケートを実施し、意識変容があったかを評価
	支援者支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市域・エリアで起こっている困難課題を共有し、一緒に考えることで支援力をアップさせたい(支援機関の支援のしづらさの解消)</li> <li>・好事例を普遍化させ、新たな制度や社会資源の整理や提案を行うことで支援者支援を進めたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中会議(支援者わがまま会議Ⅰ) →困難事例の「事実」と「ぼやき」から「あっ! たらいいな!」をセッションする ※支援者支援として、福祉分野だけでなく、関われる分野を増やすことが第一目的</li> <li>・大会議(支援者わがまま会議Ⅱ) →中会議の議題に内容から、行政の福祉部局を含めた関係各課と支援者とでセッションする ※支援者と行政機関のコミュニケーション及び参加者満足度を上げることが第一目的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規に関わった分野の件数</li> <li>参加者アンケートの満足度</li> </ul>

## 2 (2)取組の成果 ・庁内連携会議



### 令和7年度 地域共生社会の連携会議の開催

- 第1回 令和7年4月25日(金) 所属長会議
- 第2回 令和7年5月27日(火) 担当者会議
- 第3回 令和7年9月30日(火) 担当者会議
- 第4回 令和8年2月4日(水) 担当者会議



### 3. 令和7年度 孤独・孤立に関するワークショップについて (1)振り返り

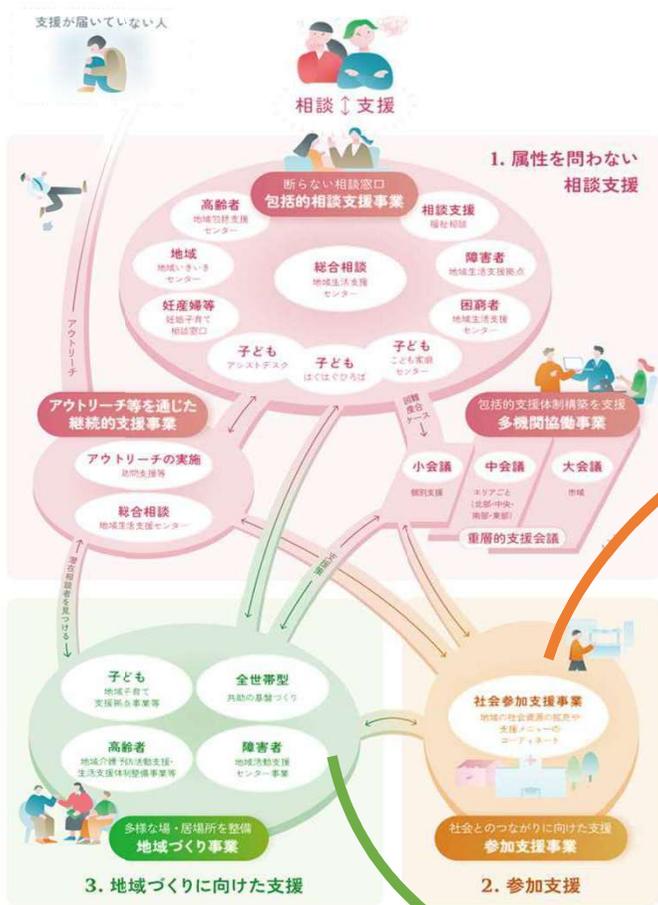


地域共生社会の連携会議の様子

## 2 (2)取組の成果 ・参加支援と地域づくり



### 相談だけではない, 参加支援と地域づくり



#### 参加支援事業

社会とのつながりを作る。オーダーメイドの支援メニュー



ラコルタ柏1階  
あえる・てらす

守られた空間(要支援者に寄り添った個別支援の実施)

#### 交流

オープンな空間(多様な人の居場所づくり)



ラコルタ柏2階  
多世代交流スペース

世代や属性を超えた交流の場  
潜在的な困りごとを抱える人を見つけるプラットフォーム

#### 地域づくり事業



# 目次

## 1. はじめに

- (1) 重層的支援体制整備事業の全体概要
- (2) 私たちの目指す「包括的な支援体制」とは
- (3) 柏市重層的支援体制整備事業(かしまる)の全体概要

## 2. 令和7年度のかしまる進捗状況

- (1) 主要な取組
  - ・かしまるプロジェクト実行計画
- (2) 取組の成果
  - ・地域共生社会の連携会議
  - ・参加支援と地域づくり

## 3. 令和8年度かしまるの取組方針

- (1) 重層的支援体制整備事業の今後の見通し
- (2) 柏市の取組方針

### 3 (1) 重層的支援体制整備事業の今後の見通し



#### 全国的な事業実施による国のフェーズ転換

令和3年度の制度開始以降、実施自治体は約10倍  
国は財政的な持続可能性を確保するため、  
交付基準の厳格化し、令和7、8年度の2カ年にわたって  
見直しを行った



・急激な普及:実施自治体が42団体(R3)から  
471団体(R7)へ



・予算額:10億円から56億円に増額



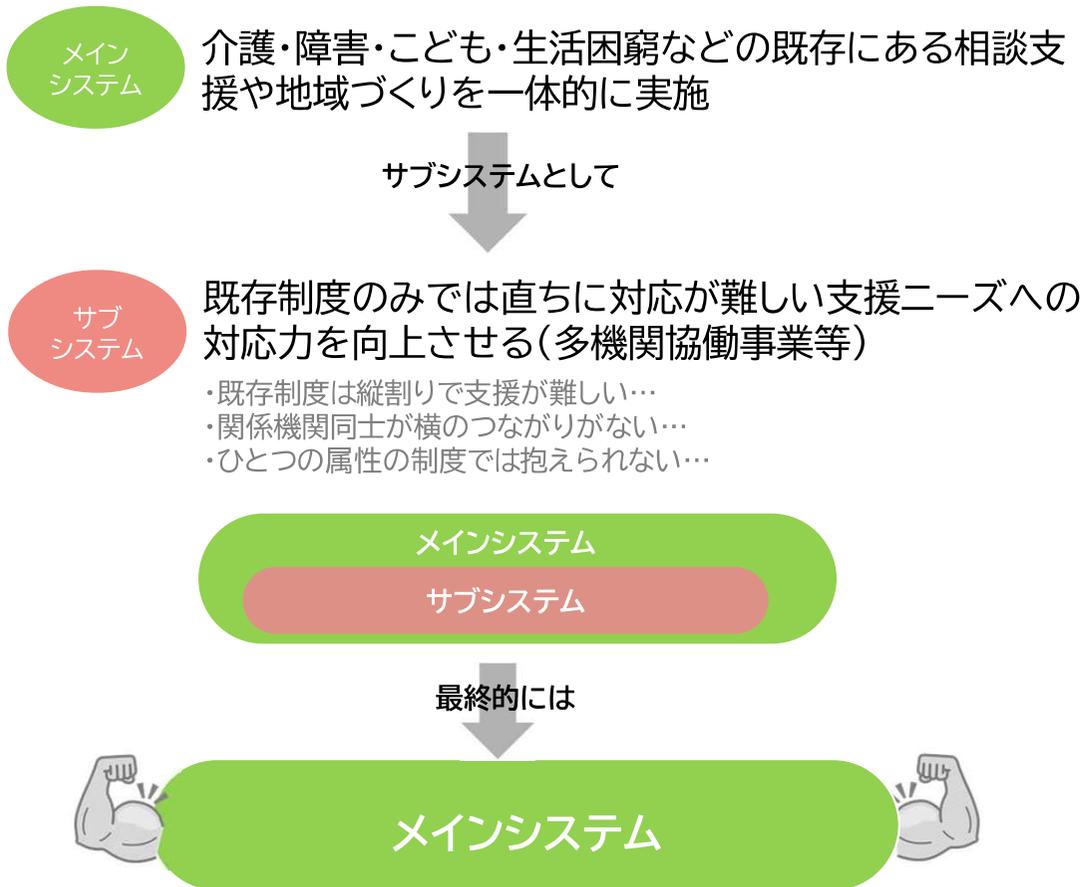
- ・R7年度の交付方針:上限額の引き下げ  
多機関協働事業  
56,000千円→50,000千円
- ・R8年度の交付方針:割合の見直し  
(1)事業開始から5年以上経過した市町村  
(2)取組内容の応じた交付基準額の設定



# 3 (1) 重層的支援体制整備事業の今後の見通し

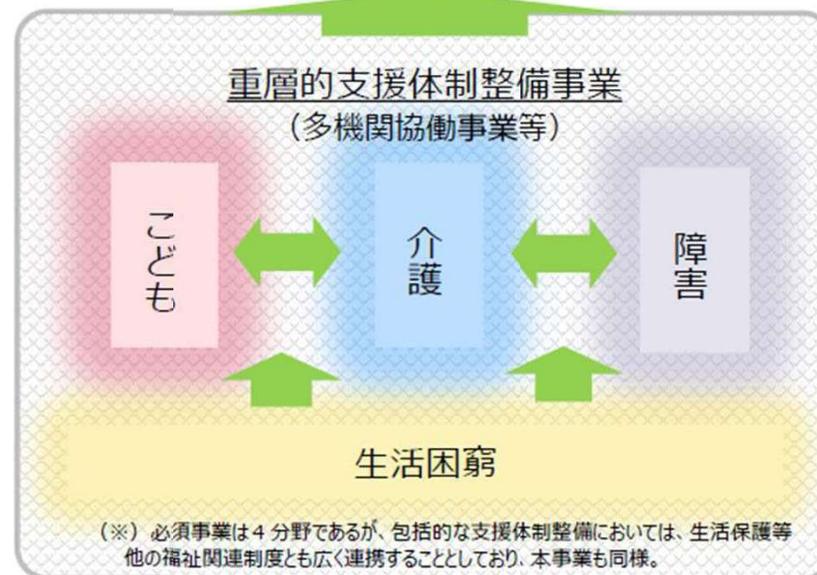


## 国の方針:原点に立ち返り「既存制度の強化」



## 「重層的支援体制整備事業のイメージ」

既存制度・機関の支援者の対応力強化、  
既存制度・機関間の連携強化



開始後の課題：  
サブシステム(多機関協働事業)に個別のケースを任せっきり。  
多機関協働事業の拡大(予算等)と孤立化の状況。

多機関協働事業は、連携体制構築に向けた事業評価や  
検証により交付金を取扱う

## 3 (2) 柏市の取組方針



これまでどおり、多機関協働事業者と共に既存制度の支援力を向上させるため、支援者間の調整やチーム支援をするための「支援者支援」を実施

### <支援者間調整>

各支援者が同じ方針のもと動けるように、役割分担を調整し進捗を管理

### <支援者支援>

要支援者の生活課題の解決、緩和だけでなく、支援者が「何に困っているのか」「何が必要なのか」

### <支援者育成>

将来的には、多機関協働事業者がいなくても既存の支援機関で対応する

毎年度何を実施するか検討

かしまるプロジェクトを今後も推進



# 3 (2) 柏市の取組方針



総合相談で「バトンを受け取る」のではなく、全ての既存の窓口が「バトンを持つ」体制へ

令和7年度まで



▶▶ かしまるプロジェクトで柔軟に対応



柏市の多機関協働事業実施体制(委託先)と期待する役割(例)

### 伴走支援コーディネーター (社協)

- ・複雑化・複合化した課題の包括的相談支援
  - ⇒ インテーク, アセスメントまとめ
  - ⇒ 支援チームの決定
  - ⇒ 伴走支援
- ・重層的支援会議及び支援会議の開催及び参加
  - ⇒ 小会議及び中会議の開催
- ・市の包括的な支援体制の構築
  - ⇒ 支援機関や多分野との連携や協働の円滑化に向けた取組
  - ⇒ 庁内会議(地域共生社会の連携会議)
  - ⇒ 支援機関の支援力向上に向けた取組

### 支援者サポート (自立相談支援機関)

- ・複雑化・複合化した課題の包括的相談支援
  - ⇒ 課題の解きほぐし
  - ⇒ 支援の方向性
  - ⇒ 支援者のアドバイザー機能(ノウハウの共有)
- ・重層的支援会議及び支援会議の開催及び参加
  - ⇒ 大会議の開催
- ・市の包括的な支援体制の構築
  - ⇒ 相談支援体制の検討
  - ⇒ 支援機関や多分野との連携や協働の円滑化に向けた取組
  - ⇒ 庁内会議(地域共生社会の連携会議)への参画
  - ⇒ 支援機関の支援力向上に向けた取組



## 3 (2) 柏市の取組方針



### 地域住民等とともに「かしまる」を検討するプロセス作り

このゲームのテーマ

コーピング：対処する・課題と向き合う



**社会的孤立：「必要なときに必要な助けが届かない状態」を解消したい!!**

年齢を重ねると、私たちにどのようなことが起き、何が必要となり、どういった選択ができるのか、自分自身で知っておく必要があります。しかし、超高齢社会の社会課題について、一人ひとりが自分の問題として捉えることは簡単ではありません。そこで、頭で理解するだけでなく、“体験すること”ができればと考え、超高齢社会体験ゲーム「コミュニティコーピング」を開発しました。コミュニティコーピングは、10年以上、高齢者とご家族の相談支援に取り組んできたコレカラ・サポートの知見をもとにしており、実際の相談内容が出てきます。地域の中で支援が届かずに悩みを抱える人に対して、人や地域資源をつなげることで、悩みを解消し社会から孤立することをなくすことができます。その大切さと気づきを知ることが、現実の社会で起きている社会的孤立の解決ヒントになると考えています。

出典：コミュニティ・コーピングHP

- ・人と地域資源をつなげることで「社会的孤立」を解消  
→自分事として捉える, 体験する(意識変容)
- ・地域におけるプレイヤーを増やす(行動変容)



### 理解と共感を得るツールとして活用

- ・地域へ出向き, 社会的孤立や地域課題と向き合う場の創出
- ・庁内連携会議等における横断的課題に向き合う場での活用
- ・支援者同士の相互理解・コミュニケーションを図る 等